

人権センター公開講座 (県民講座2013) のご案内

続編

## 地球のステージ 2

～国境を越えて+東日本大震災復興篇～

NPO法人 地球のステージ代表理事

くわ やま のり ひこ  
桑山紀彦さん



「地球のステージ」は大画面の映像と音楽、語りを組み合わせたコンサートステージです。今回は、昨年12月の小郡市人権週間記念公演会「地球のステージ」の続編となっています。カンボジアでの医療活動や、世界で最も危険と言われるパレスチナ自治区ガザでの少女との出会いなど、桑山さんが海外で体験したことやこれまで出会った人々の明るくたくましく生きる姿を伝えていただきます。

世界で起きている紛争、貧困、災害などの出来事をテーマに、人権や国際理解、仲間づくり、地域のこと、学校のことなど様々なことを考えるきっかけになるのではないかと思います。世界に目を向けながら、人権を守るとはどういうことかについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。ぜひご参加ください。

参加費無料

手話通訳あり

要約筆記あり

【※小中学生のみなさんも、ぜひ参加して下さい！お待ちしております。】

■日時：平成25年8月31日(土) 13:30～15:00

■会場：小郡市生涯学習センター 七夕ホール(小郡市大板井 1180-1)

■主催：(公財)福岡県人権啓発情報センター・小郡市人権教育啓発センター  
【問い合わせ】

◇小郡市人権教育啓発センター：小郡市小郡296 TEL：0942-80-1080

# 世界の子どもたちは今

「子どもの権利条約」は、虐待や搾取など、弱い立場に置かれている子どもたちに特別な保護をしなければならないと規定しています。にもかかわらず、世界では今もたくさん子どもたちが貧困や虐待の中で毎日を送っています。そんな世界の子どもたちの現状と課題についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。小中学生の皆さんも世界の友だちがどんな毎日を送っているのか知っていただきたいと思います。

## 人を殺さない生きていけない・・・

### 中央アフリカ、東南アジア、パレスチナ、イラクなど

ユニセフでは世界にいる少年兵の数を25万人と推定しています。紛争が多発している地域の最前線で命令によって敵を、時には肉親さえも殺さなければならない状況に追い込まれています。戦闘だけ



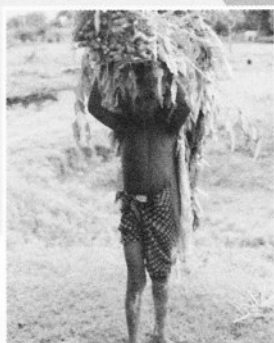
でなく、誘拐、スパイ、物資の運搬などさまざまな仕事を強制されています。女の子は性的道具として扱われている実態があります。

救い出された子どもたちも、心に受けた深い傷によって普通の社会生活が送れない、地域社会が受け入れないなど、後々まで影響を受けており、元少年兵の社会復帰は大きな課題になっています。

## 子どもが売買されている・・・

### 東南アジア、アフリカ、インド、中国など

家族を助けるために、親の借金を返すために、また良い仕事があるとだまされたり、誘拐されたりなどさまざまな理由で子どもたちが安いお金で売買されています。そんな子どもたちの毎日は・・・。考えるだけで胸が締めつけられます。



## 5歳の誕生日を迎えられない、 栄養が足りない・・・

### 南アフリカのニジェールなど

南アフリカなど、開発途上国と呼ばれる国々では、一年間に700万人以上の子供たちが、5歳を迎える前に命をなくしています。これは4～5秒にひとりが亡くなっていることになります。

## 大震災がたくさんのものを奪った・・・日本

東日本大震災によってたくさんのいのちが奪われました。子どもたちも多く亡くなりました。

さらに、助かった子どもたちのなかの1,698人も子どもたちが両親とも、あるいはどちらかの親を亡くしています。津波や原発事故で各地に避難した子どもたちに「放射能がうつる」「津波に流されればよかったのに」などの心ない言葉が投げつけられ、学校に行けなくなったり、再び転校しなければならなくなったりした子どもたちがいます。



## 住む家がない・・・

### 東南アジア、ロシア、アフリカ、中米など

家が貧しくて親に育ててもらえないなどの理由で都会の路上などで働いたり生活をしたりしている子どもたちがたくさんいます。ストリートチルドレンと呼ばれる子どもたちです。現在世界には1億人以上いると言われていますが、正確な数は分かっていません。

子どもたちは靴を磨いたり、新聞や花を売ったり、ゴミ捨て場から売れるものを拾ってきたりしながら一生懸命に生きています。しかしこうした子どもたちは犯罪に巻き込まれたり、麻薬の犠牲になったりすることが多く、危険な状況におかれています。



## 学校に行けない・・・

### ルーマニア、パキスタンなど

学校に行きたくても行けない子どもが世界には約1億人以上いると言われています。さらに学校に通うことができた子どもたちも途中でやめざるを得ない状況に追い込まれています。その原因はさまざまですが、多くは貧困によるものです。

教育を受けていないためにだまされたり、安定した収入を得たりすることができず、いつまでも貧しさから抜け出すことができないままにいることとなります。

## 働かなければ生きていけない・・・

開発途上国を中心に、5歳～17歳のおよそ2億1,500万人の子どもたちが過酷な労働を強いられています(2010年ILO調べ)。子どもたちは、貧しい家族の生活を支えるため、親の借金を返すためなど、さまざまな理由で長時間、低賃金で働いています。

仕事場はコーヒー、カカオ、バナナなどの農園、ガラスやマッチ工場などさまざまですが、現場の多くは有害な農薬・薬品を使ったり、高温、危険な作業だったりなど、劣悪な環境がほとんどで、幼いからだをむしばんでいます。給料は長時間働いて一日100円前後という低賃金です。

私たちが今飲んでいるコーヒーはこうした子どもたちが収穫したコーヒー豆からできているのかもしれない。



このような状況は広い世界の中の出来事なので、なかなか実感がわかないというのが本当のところかもしれません。しかし自分とは関係のないことだと目を向けないのではなく、関心を持ち、知ろうとすること、そして自分にできることは何かを考えてみるのが大切だと思います。

(ユネスコ、その他のHPを参考にしました)

# インターネットと人権

インターネットは、驚くほどの勢いで私たちの生活の中に浸透し、今やなくてはならないものになっています。世界中の様々な情報を居ながらにして瞬時に入手することができたり、遠く離れた人、多くの知らない人とコミュニケーションをとったりすることができます。

そして、携帯電話もインターネットなどが利用できる、「スマートフォン（スマホ）」が主流となり、その機能は年を追うごとに進化しています。

ええ〜っ！



## しかし、「便利」と「危険」は隣り合わせ・・・

このようにインターネットは、正しく利用すれば、生活を豊かにするためにとても便利なものです。しかし、一方ではインターネットの情報をうのみにして被害にあったり、匿名性を利用した悪質な「書き込み」で、個人のプライバシーが大勢の人の目にさらされたりする被害も増えています。しかも、一度発信した情報は、取り戻すことができません。「私は知り合いの高校生から、ケータイの掲示板を見せられ、その内容に驚きました。そこには、個人名があげられ、さらに何人かの人が匿名でその個人を誹謗（ひぼう）・中傷しているのです。書かれている内容は、悪質極まりないものでした。」これは一つの事例で、氷山の一角に過ぎません。

スマホでは、送信した情報がアドレス帳登録者を介して、第三者から第三者に広がっていく機能が使えます。簡単に、多くの人との繋がりが持て、連絡し合えるという良さがあるのですが、個人の情報が自分の知らない人の間で飛び交うという怖さもあります。

## 意識していますか？

### インターネットの向こう側・・・



パソコンやスマホを利用している時は、特定の相手に話をしているような気分になるかもしれないけれど、その向こう側では何百人、何千人という人が、あなたが発信した情報を見ているのです。軽い気持ちで書き込んだことが、大切な友だちや周りの人を傷つけているかもしれないのです。

## 本当に求めているのは・・・

スマホのアドレス帳にはたくさんの「友だち」の名前が登録されています。いつでも、誰とでも話ができる……。しかし、私たちが本当に求めているのは、顔が見えない多くの「名前」ではなく、顔と顔を合わせ、生の声で語り、お互いを理解し合う関係やつながりではないでしょうか。

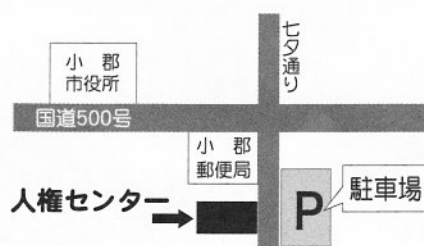
そのためには、安心して情報を得たり、発信したり、たくさんの人とつながり合うことができる社会、つまり、人権が大切にされる社会をつくる必要があります。

…そうだね！



## インターネットを利用する時、考えてみよう！ 相手の表情・思い・人権

その情報が正しいのか、自分が発信する言葉で辛い思いをする人はいないのか、もう一步、立ち止まって「人権のこころ」で考えてみましょう。



## 小郡市人権教育啓発センター

(所在地) 〒838-0141 小郡市小郡296  
(電話&FAX) 0942-80-1080 (直通)  
(Eメール) dotai@city.ogori.lg.jp  
(ホームページ) <http://www.city.ogori.fukuoka.jp/>  
【ホーム>観る・学ぶ・人権>人権教育啓発センター】